

定期試験

【定期試験の出題範囲は、学校で使っている教材や授業のノートにかなり限定されている（学校重視）。なかでも教科書からの出題がもっとも多く、入試問題は特別に意識されていない（基本重視）。また、ノートからの出題も多いことによって生徒は授業をしっかり聞くことが必要になっている（授業重視）。一方、市販のテストを参考にしているのは3割に対して、全くオリジナルな問題を考える教師は

6割いる（オリジナル志向）。定期試験の問題作成にあたっては、このような全体的傾向があるが、担当教科間で差がある。定期試験の内容やスタイルは、授業の進め方・形態や、どんな能力を評価するのか、評定と観点別評価の関係をどう捉えるのかといった、評価についての考え方と、おそらく不可分になっている。】

Q9. あなたが定期試験の問題を作成するときに、次のことはどの程度当てはまりますか。
A~Jのそれぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。

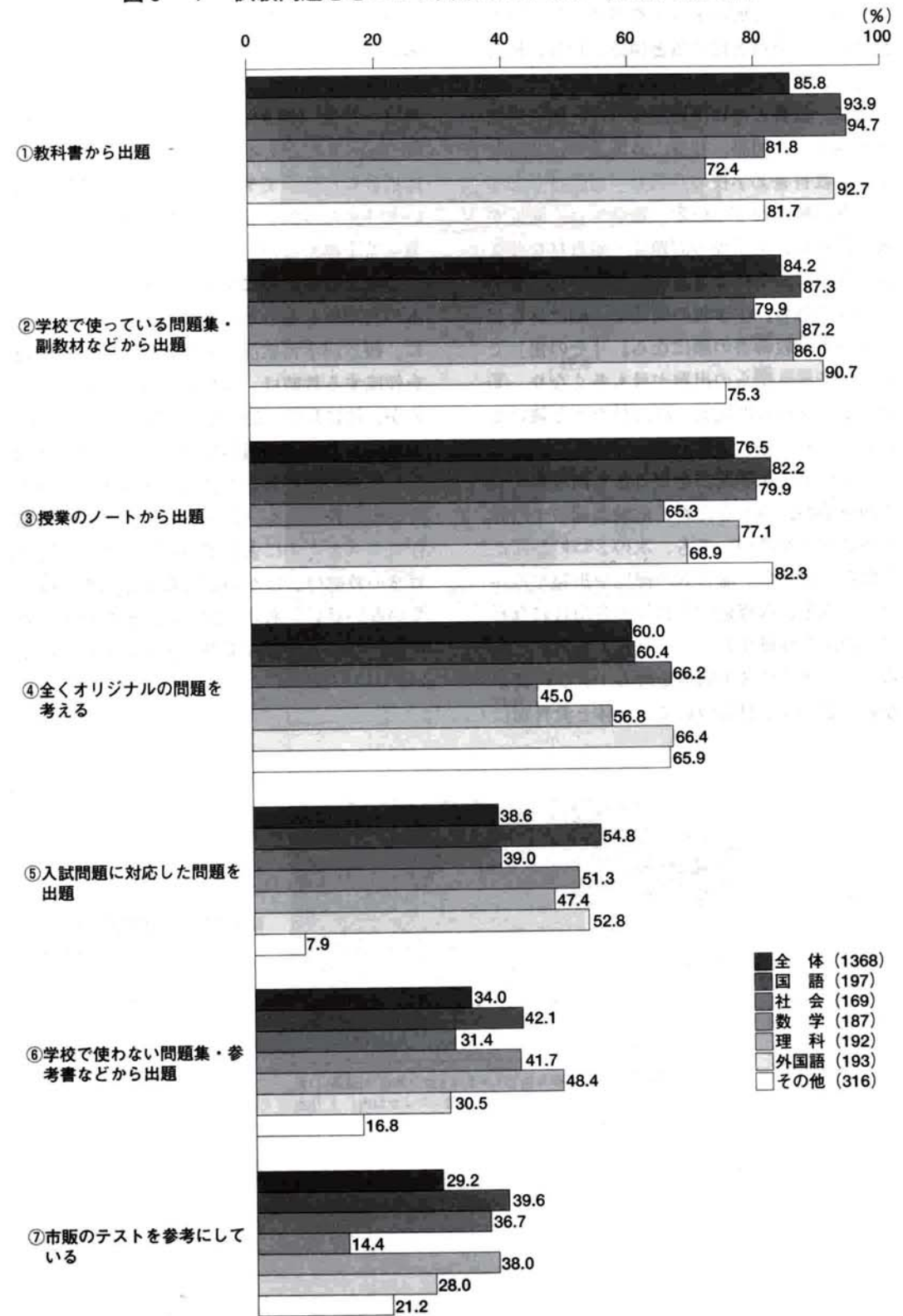
評定を決定する際には定期試験が最重視されていたが、教師はこれをどのようにして作成しているのだろうか。図3-7は、試験問題をどこから出題しているかについて、全体と担当教科別に並べたものである。まず全体の数値に注目してみよう（数値は「非常に当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計）。

回答率が7割を超えるのが①教科書から（85.8%）②学校で使っている問題集・副教材などから（84.2%）③授業のノートから（76.5%）の3項目である。一方、⑤入試問題に対応した問題の出題（38.6%）⑥学校で使わない問題集・参考書などからの出題（34.0%）は少ない。すなわち、定期試験の出題範囲は、学校で使っている教材や授業で扱ったノートにかなり限定されており、学校が指定した範囲の勉強を一生懸命やっていたらその努力が反映しやすいようになっている（学校重視）。なかでも、教科書からの出題がもっとも多く、基礎・基本の内容が押さえられており、入試は特別に意識されていない（基本重視）。また、教材からだけでなく、ノートからの出題も多いことによって、生徒はしっかり授業を

聞き、ノートを取ることが必要になってくる（授業重視）。さらに、⑦市販のテストを参考にしているのは3割（29.2%）に対して、④全くオリジナルの問題を考える教師は6割いることから、問題作成の一部分を他者に任せて試験問題を標準化するよりは、自分独自で工夫しようとしている姿がうかがえる（オリジナル志向）。

各項目を教科別に比較してみると、①教科書からの出題が他教科と比べてもっとも多いのは、社会であり（94.7%）、理科で少ない（72.4%）。②学校の問題集・副教材などからの出題は、外国語でもっとも多く（90.7%）、社会と「その他」で少なくなっている。③ノートからの出題は、授業中の態度・勤勉さを重視する傾向が高かった「その他」と国語で80%を超え、数学と外国語で少ない（それぞれ65.3%、68.9%）。④オリジナルの問題を考えることが多いのは、外国語、社会、「その他」（約66%）で、数学でもっとも少ない（45.0%）。⑤入試対応の問題を作成するのは、国語、外国語、数学で半数を超えている。⑥学校で使わない問題集・参考書からの出題は、教科書か

図3-7 試験問題をどこから出題しているか（全体、教科別）



注1) 数値は「非常に当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計。注2) ()内はサンプル数。

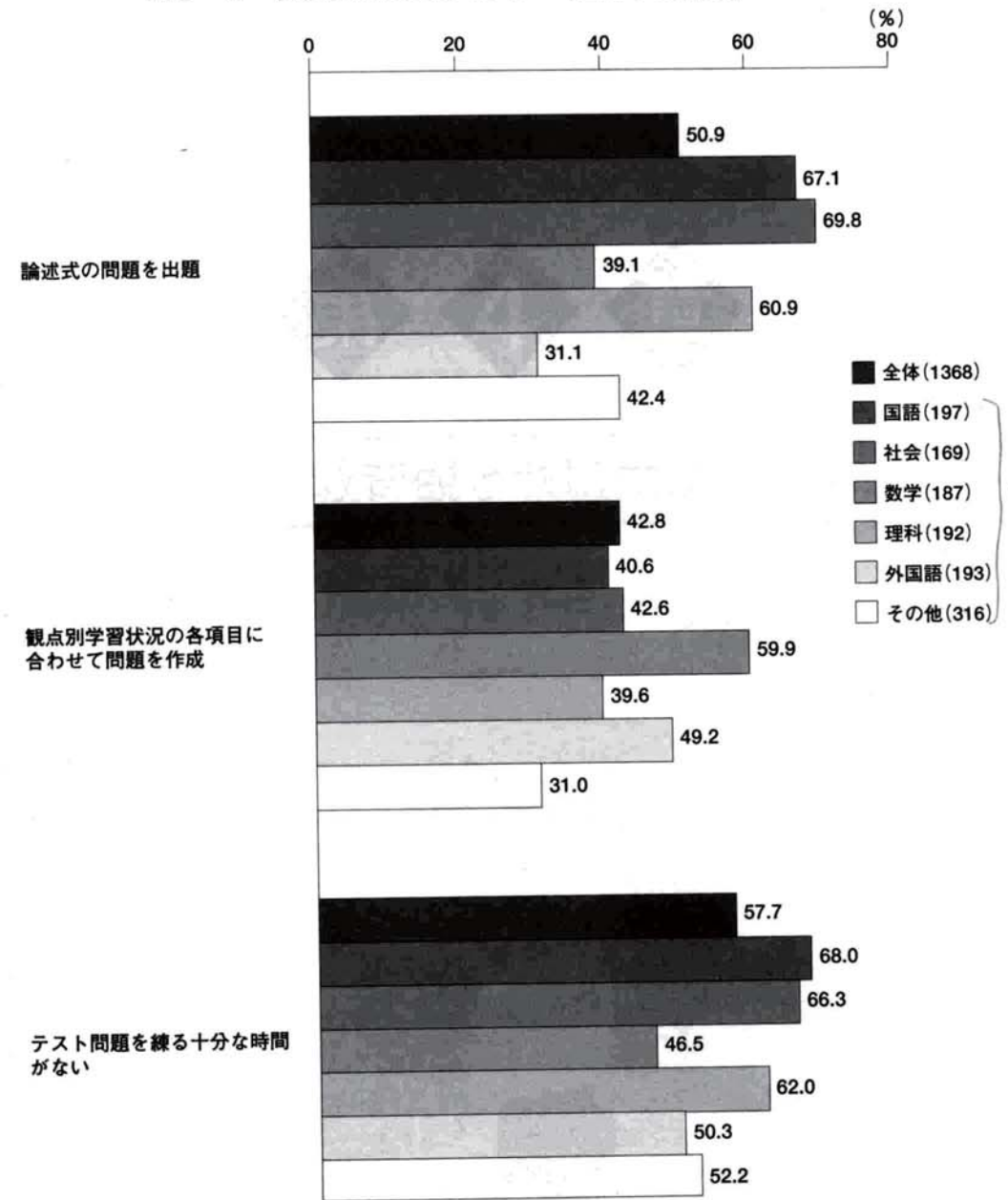
らの出題が比較的少ない理科だけが半数に及んでいる。⑦市販のテストを参考に行っている割合は、他教科と比べると国語、理科、社会で高く、数学でもっとも低い。

次に、教科ごとに出題頻度の高い順に項目を並べると、国語、社会、外国語では共通して、①教科書②学校の問題集・副教材など③ノートとなっている。数学では、順位が入れ替わり、①学校の問題集・副教材など②教科書③ノートになる。理科では、教科書が3番目に落ち、①学校の問題集・副教材など②ノート③教科書の順になる。「その他」では、①ノートからの出題が最も多くなり、②教科書③学校の問題集・副教材などと続いている。

以上では、試験問題をどこから出題しているかを中心にみてきたが、試験問題のそのほかのスタイルについても、次の2つの側面から質問を設けた。論述式の問題を出題するかという点と、観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成するかという点である。これら2項目と「テスト問題を練る十分な時間がない」という項目について、全体と教科別に

値を示すと、図3-8のようになる(数値は「非常に当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計)。論述式の問題は全体で見ると、50.9%の教師が出題しているが、その傾向が高いのは、社会(69.8%)、国語(67.1%)、理科(60.9%)である。また、これらの教科では他教科に比べてテスト問題を練る時間がないと答える教師が多く、市販のテストの利用率も若干高かった。これに対し、数学はテスト問題を練る時間に余裕があり、市販のテストの利用率ももっとも低い(図3-7)。次に、観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成する教師は、全体で42.8%と相当数いるが、特に数学(59.9%)、外国語(49.2%)が多い。これらの教科では、「観点別評価はテストの結果を大きな目安にすべきだ」という意見が比較的多く(図3-6)、それが問題作成のスタイルに表れているといえる。特に、数学の教師は、ほかの評価基準をあまり持っていないせいもあり、観点別評価を行うためには、このような方策が必要なのかもしれない。

図3-8 試験問題の作成スタイル(全体、教科別)



注1) 数値は「非常に当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計。
注2) ()内はサンプル数。